

2019年日本建築学会著作賞 候補業績募集要領

日本建築学会では、2013年より「著作賞」を設置し、会員が執筆した建築にかかわる優れた著書を表彰することとしております。つきましては、2019年日本建築学会著作賞の候補業績を下記の募集要領によって公募しますので、2018年8月20日(月)17時(必着)までに、審査に必要な資料を提出くださるようお願いいたします。

2018年7月
一般社団法人 日本建築学会
日本建築学会著作賞選考委員会

1. 賞の対象

会員が執筆した建築にかかわる著書であって、学術・技術・芸術などの進歩発展あるいは建築文化の社会への普及啓発に寄与した優れた業績を対象とする。

2. 審査の対象

- (1) 2013年6月1日から2018年5月31日までに公刊(または翻訳公刊)された新刊の著書(論文集等の論文、雑誌等の記事、またはそれらを列記しただけのものは除く)を対象とする。
- (2) 日本建築学会編または日本建築学会刊行の著書は、審査対象としない。
- (3) 著者は本会会員であることを原則とするが、共著者の一部に本会会員外の者を含むことは構わない。
- (4) 著書の出版形態は、紙、電子出版物など著作賞選考委員会が認めたものとする。
- (5) 著書の使用言語は日本語または英語とする。

3. 選考基準

著書としてのまとまりを重視し、本会の目的とする学術・技術・芸術の発展向上に対する寄与、さらには一般社会に対する影響等、幅広い視野から検討して選考を行う。

4. 応募

- (1) 会員が自薦または推薦したもの。ただし、自薦の場合は1件の応募に限る。
- (2) 研究機関・団体および職場が推薦したもの。

注) 応募にあたっては著者全員の了解を得るものとし、故人(応募時点までに逝去)を著者とする応募は認めない。

5. 審査の資料

- (1) 候補推薦書1部(書式 http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2018/suisen_t.doc)
なお、当該著作に関連して、過去に日本建築学会の賞を受賞している場合には、推薦理由欄にその事実を明記のこと。
- (2) 候補著書3部
- (3) 資料の作成費、著書の費用は応募者の負担とする。

6. 表彰

- (1) 表彰件数は厳選寡少を旨とし、5件を基準とする。
- (2) 賞は「日本建築学会著作賞」と称し、賞状・賞牌を授与する。
- (3) 賞を受ける者は当該著書の著者とする。ただし、主たる著者は本会正会員であることとする。
組織名等による著書は組織等を表彰することができる。ただし、組織が法人会員であるか、主たる著者が本会正会員であることとする。
訳書の場合は、著者および翻訳者を表彰することができる。
- (4) 本賞の重賞は妨げない。
- (5) 適当な業績がなければ表彰しない場合もある。
- (6) 表彰は総会の席上で行う。

7. 応募の締切

2018年8月20日(月)17時(必着)応募締切

2019年4月 理事会で表彰業績の承認後公表

2019年5月 贈呈式(総会)

8. 候補著書の取扱い

- (1) 著書は所定の候補推薦書に添付する。
- (2) 審査のために提出した著書は、原則として返却しない。
- (3) 受賞者は受賞した著書を本会に1部寄贈する。

9. 提出先

〒108-8414 東京都港区芝5-26-20
一般社団法人日本建築学会
著作賞選考委員会

10. 選考委員会

委員長	伊藤 裕久(東京理科大学教授)
幹事	岩佐 明彦(法政大学教授)
	榎間 隆之(清水建設(株)設計本部副本部長)
委員	伊香賀俊治(慶應義塾大学教授)
	岩岡 竜夫(東京理科大学教授)
	腰原 幹雄(東京大学生産技術研究所教授)
	清水 重敦(京都工芸繊維大学教授)
	中江 研(神戸大学准教授)
	橋本 典久(騒音問題総合研究所代表、八戸工業大学名誉教授)
	深川 礼子((株)ofa一級建築士事務所代表取締役)
	安田 徹也((公財)竹中重大工道具館学芸員)
	山崎 義人(東洋大学教授)